

[連載]第33回 清々しき人々 月尾嘉男(東京大学名誉教授・工学博士)

世界が評価した
在野の博物学者

みなかた くまぐす
南方熊楠



南方熊楠(1867-1941)

奇抜で偉大な学者

皇居内部には現在でも生物学研究所と名付けられた建物が存在します。これは生物学者でもあった昭和天皇が週末に研究をしておられた施設で、数多くの研究対象の一種が粘菌(図1)でした。一九二九年夏に昭和天皇が戦艦長門で和歌山県の田辺湾内に行幸されたとき、艦上で粘菌について御前講義し、粘菌の標本を市販のキヤメラの空箱に封入して献上した学者がいました。桐箱で献上するのが常識ですが、まったく頓着しない学者でした。

アメリカ時代
南方熊楠は幕末の慶応三年(二八六七)四月に和歌山城の北側の橋下という場所にある商家の南方弥兵衛とスミの次男と

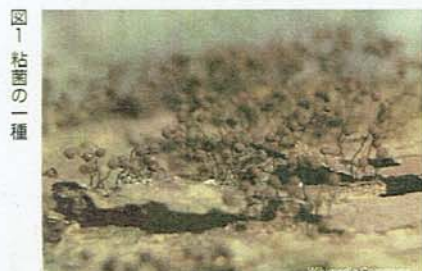
して誕生しました(図2)。子供の時代から観察能力と記憶能力が抜群で、近所の商家の貴重な蔵書を開覧させてもらい、それを記憶して自宅で筆写するという方法で「和漢三才図会」本草編目「諸国名所図会」などを複製しています。一〇五巻からなる「和漢三才図会」などは五年もかけて完成させるという執念でした。

一六歳になった一八八三年に和歌山中学校を卒業して上京、神田にあった英語で授業をする共立学校で勉強し、翌年、大学予備門に入学します。この同期には作家になる夏目漱石、俳人として有名な正岡子規、日露戦争で海軍の作戦参謀として活躍する秋山真之、言文一致の文体を推進した山田美妙など錚々たる人物が在籍していました。しかし、熊楠は遺跡発掘や細菌採集などに熱中していたため中間試験で落第し、中退してしまいました。

そこで一旦、帰郷し、父親にアメリカで勉強したいと嘆願して許可されます。一八八六年暮に横浜から出航、翌年一月にサンフランシスコに到着し、地元商業学校に入学しますが、商業を勉強するつもりはなく、ミシガン州の農業学校に入学します。ところが何人かの学生と宿舎で泥酔したことの責任をとって退学する始末となり、南東のアナーバーに移動しますが、学校には入学せず、植物採集などに熱中していました。

その時期にスイスの博物学者K・フォン・ゲスネルの伝記に触発され、菌類や苔類など隠花植物の採集に熱中しますが、南部のフロリダには多数の苔類が繁殖しているという情報を入手し、一八九一年四月に汽車で三日かけてフロリダに到着して植物採集をし、さらに沖合にある小島キーウエストに旅行し、九月にはキューバの中心都市ハバナに移動しました。明治時代としては驚嘆するような行動です。

一八八六年にキューバでは奴隷制度が廃止されたが、ハバナでサーカス一座の曲馬師川村駒治郎に出会い、その一座と一緒にハイチ、カラカス、ジャマイカなどを旅行しながら、サーカスの仕事を手伝うとともに、菌類や苔類を採集しています。翌年にはフロリダのジャクソンビルに帰還、そこで採集してきた植物を整理し、以前から予定していたイギリスへ移動するため、一八九二年九月にニューヨークから客船でリパブルに出発しました。



ロンドンに移動した熊楠は和歌山県出身で横浜正金銀行ロンドン支店の中井芳楠店長を訪問しますが、そこで父親が死亡したとの手紙を受領しました。途方にくれた熊楠は安宿に宿泊し、これまで採集した植物標本の整理をしつつ、市内の博物館巡りを行いました。その最中に片岡プリンスという骨董商人に出会いますが、この片岡が熊楠の博識に感心し、大英博物館(図3)の考古学民俗学部長サー・W・フランクスに紹介してくれました。

そのような時期に、科学雑誌「ネイチャー」に「星宿構成についての五条」という質問が掲載されていることを発見し、その回答として一ヶ月間かけて論文「極東の星座」を作成します。これが日本人初の「ネイチャー」掲載論文となったため、熊楠は一躍有名になり、ロンドンの著名な学者と交遊するようになります。以後、熊楠は連日のように大英博物館を訪ねて様々な言語の稀見書籍を閲覧し、五二冊にもなる記録を作成しています。

このような活躍に感心した東

ロンドンに移動した熊楠は和歌山県出身で横浜正金銀行ロンドン支店の中井芳楠店長を訪問しますが、そこで父親が死亡したとの手紙を受領しました。途方にくれた熊楠は安宿に宿泊し、これまで採集した植物標本の整理をしつつ、市内の博物館巡りを行いました。その最中に片岡プリンスという骨董商人に出会いますが、この片岡が熊楠の博識に感心し、大英博物館(図3)の考古学民俗学部長サー・W・フランクスに紹介してくれました。

7日間 ぼくの選挙戦記 25歳で区長選挙に出馬した理由 何もしなければ社会は前に進まない! 25歳の青年が突然区長選に出馬した。「ぼくが挑戦しなければ、高まる熱い思い。7日間の選挙戦が始まった。初めて飛び込んだ政治の舞台、何もかもが失敗の連続。しかし彼を支えたのはボランティアの若者たち。共につまづきながら精一杯明日を見つめた7日間は終わらない。 田中将介 [著]

「Morgen」の人気連載、書籍化! 清々しき人々 月尾嘉男 [著] 自分のためだけではなく、人々のためにも高い理想と目標をもって生きた歴史に残る人々、23人を紹介。これから目指す社会のために。 日本が東洋の英国になることを期待した教師……ヘンリー・ダイア 明治時代に情報社会を見通した天才……志田 林三郎 関東大震災を警告した地震学の先駆者……今村 明徳 日本の科学の発展に活躍した……本多 静六、他19人

図3 大英博物館



洋図書館長サー・R・ダグラスは熊楠に館員になるよう勧誘しますが、自由であることを選択して辞退します。しかし、東洋の書籍目録の作成、仏像の名称の考証などに貢献しますが、当時はまだ東洋の人間への蔑視があり、それによって何度か騒動となり、ついに大英博物館への出入り禁止になってしまいました。父親の死亡によって日本からの送金も途絶え、ついに一九〇〇年に日本への帰国を決意します。

田辺に定住

ロンドンから四五日間の船旅により神戸に到着し、出迎えてくれた酒屋として成功している実弟の常備の和歌山市の住居に寄宿することになり、隠花植物などの採集に没頭します。しかし、連日の大酒で常備との関係が悪化し、翌年の一〇月末に南方酒造の支店のある勝浦に移転します。以後しばらくは勝浦を拠点に紀伊半島南部の各地を探索しながら植物採集をしようと、「ネイチャー」などへ何編かの論文を寄稿しています。

図4 神鳥



ロンドンでは東洋の人間を蔑視する人々に反発して騒動となりましたが、日本でも問題を発生させています。一九一〇年に地元の学校で開催された一代会合に参加しようとしたところ入場を拒否されたため、手許の荷物を会場に投入しました。そこで家を侵入の罪状で連行され一八日間も監獄に留置されました。結局は無罪釈放となります。

することにありますが、結婚する以前に、木樽に一杯の自分の蔵書を松枝に贈物として送付したという奇抜な行動もしています。熊楠は四〇歳、松枝は二八歳で、当時としては二人とも晩婚でしたが、結婚した翌年の一九〇七年に長男の熊弥が誕生し、さらに一九一一年には長女の文枝も誕生しています。

神社合祀に反対

熊楠が乱入しようとした会場では神社合祀について議論する会合が開催されていた。日本では、古来、この集落にも氏神を祭神とする神社があります。一九〇六年に成立した第一次西園寺公望内閣は集落ごとに存在する神社を一町村一神社に統合する神社合祀政策を強行しました。この政策により、日本全体で二〇万社が存在していた神社のうち約七万社が一九一四年までに廃社になっています。この政策に強硬に反対したのが熊楠でした。

主要な反対理由は、敬神精神を弱体化する、地域が衰退する、愛国精神を喪失させる、古来の史跡や伝統を消滅させるなどでしたが、さらに熊楠が憂慮したのは廃社となった神社の周囲の森林が伐採され、自然の景観と環境が破壊されるとともに、そこに生息する生物が絶滅するということでした。そこで地元『牟婁新報』に頻りに反対意見を投稿したことを手始めに「大阪毎日新聞」「東京朝日新聞」

図5 昭和天皇の御製の歌碑



熊楠の名前は海外でも有名になり、一九一五年にはアメリカの農務省殖産興業局の高官が田辺まで熊楠を訪ね、アメリカへの招聘を伝達しますが、家族の事情もあり、結局は辞退しました。しかし、これらの逸話も影響し、冒頭に紹介した昭和天皇への御前進講が実現しました。天皇が行幸されたときに粘菌についての進講が可能を打診するため、皇居内部の生物学研究所の主任服部広太郎博士が一九二九年春に田辺に内密に来訪したのでした。

その結果、一九二九年六月一日に、昭和天皇が田辺から沖合の神鳥(図4)に移動され、大切に保管していたアメリカ時代のフロックコートを着用した熊楠が島内に案内されました。それから戦艦長門の艦上で粘菌について進講が実現しました。無位無官の人間による日本最初の御前進講でした。翌年になり、熊楠の「一枝もころして吹け沖つ風」わが天皇のめでたし森そ」という和歌を彫刻した行幸記念の石碑が神鳥に建立されました。

それ以後、熊楠は神鳥が国指

昭和天皇への御前進講



つきお よしお

1942年生まれ。1965年東京大学工学部卒業。工学博士。名古屋大学教授、東京大学教授などを経て東京大学名誉教授。2002、03年総務省総務審議官。これまでコンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策などを研究。全国各地でカヌーとクロスカントリースキーをしながら、知床半島、羊蹄山麓、釧路湿原、白馬登山、宮川清流塾、瀬戸内海塾などを主宰し、地域の有志とともに環境保護や地域計画に取り組む。主要著書に『日本百年の転換戦略』(講談社)、『細小文明の展覧』(東京大学出版会)、『地球共生』(講談社)、『地球の救い方』、『水の話』(遊行者社)、『先住民の救済』(遊行者社)、『誰も言わなかった!本当は恐いビックデータとサイバー戦争のカラクリ』(アスコム)、『日本が世界地図から消滅しないための戦略』(致知出版社)、『幸福実感社会への転進』(モラル・J研究社)、『転換日本 地域創成の展覧』(東京大学出版会)など。最新刊は『清々しき人々』(遊行者社)。

定史跡名勝天然記念物に指定されることに尽力するなど環境保護に努力するとともに、これまでの発見を集成する『日本菌譜』の完成に集中しましたが、太平洋戦争開戦から三週間後の一九四一年二月二十九日に自宅で永眠しました。戦後の一九六二年に白浜を訪ねられた昭和天皇は「雨にけふる神鳥を思ふ/紀伊の国の生みし南方熊楠を思ふ」と詠まれ、歌碑が南方熊楠記念館前に建立されています(図5)。

月刊新聞『MORGEN』を定期購読しませんか?

MORGENは先生と生徒が共有する、読書を柱とした新聞です。生徒会担当教諭、図書館担当教諭、進路指導担当教諭を通して学校に配布しています。読書や社会情報を通し、子どもたちの視野を広げ、みずから社会の一員である自覚と、ものごとを客観的に見、聞き、考える目と心を育てることを目的としています。

- 媒体種別：月刊紙(毎月1回発行 ※7・8月は合併号) タブロイド判 12~20ページ
- 読者対象：中・高・大・専門学校生、小・中・高校教諭

全国の中学・高校、図書館・青少年センターなどの諸施設
大学・短大・専門学校・サポート校、個人購読者など、
教育現場や公共施設などで活用されています

購読費(年間購読)

年度途中の申込可、送料込

300円×11回×消費税
年間11回発行 7・8月は合併号

3,300円(税別)

*一部売りは500円(税別)

★購読費を県費でお支払いいただいている学校さんもあります。県への依頼送付書などはこちらで用意できますので、ぜひご相談下さい。